

Hondaの 安全運転普及活動 報告書

2015



Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

HONDA
The Power of Dreams



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL:03-5412-1736 FAX:03-5412-1737





地域に密着して開発した
新たな教育プログラム

53.3% という現実

すべての交通参加者が、安全で事故に遭わない社会を実現するために

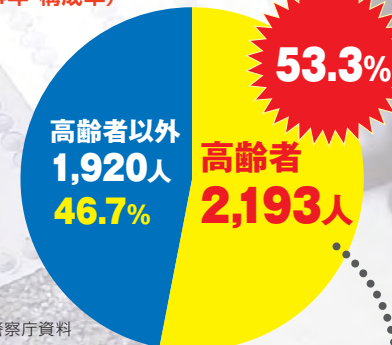
contents

Hondaの安全運転普及活動報告書 2015

特集:地域に密着して開発した新たな教育プログラム	2
ごあいさつ	6
2015年3ヶ年計画 2年目の振り返り	8
教育ソフトウェアの開発と導入	10
普及活動の変革と進化	12
海外における二輪事故低減の実現	22
資料編	23
●安全運転普及活動 この1年の歩み	
●2015年安全運転普及活動動員数	
●安全運転普及活動一覧	
●安全運転・交通安全教育に関する情報や教材のホームページ公開	
●安全運転教育機器のご案内	
●第2回「交通安全動画・ポスター」コンテスト受賞作品	
安全運転普及活動拠点	27

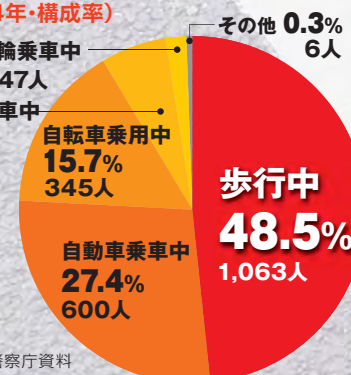
数字から見る高齢者の交通事故

高齢者(65歳以上)の交通事故死者数
(2014年・構成率)



※出典:警察庁資料

高齢者(65歳以上)の状態別・交通事故死者数
(2014年・構成率)



※出典:警察庁資料

1970年に運転者教育からスタートした私たちの活動は現在、運転者だけでなく交通社会に参加するすべての人を対象とした活動へと広がっています。

それは、クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたいと考えているからです。

交通事故死者数は1970年のピーク時からおよそ4分の1に減少していますが高齢者(65歳以上)の割合はこの3年間は50%を超えており、2014年は交通事故死者数の53.3%を占めるに至りました。

Hondaではかねてから高齢者に焦点を当てた交通安全教育プログラムの開発と普及に取り組んでおりますが、今年は歩行中の事故防止を目的とした新たな教育プログラムの開発を完了しました。高齢者の交通事故死者の中で、歩行中が最も多く、地域の指導者の方々からも新たな教育手法への期待が寄せられていました。

この開発の過程で、私たちが常に意識していたのは「現場」です。実際の交通安全の教育現場で尽力される皆様の声に耳を傾け、協力し合い、プログラムの開発を進めました。

Hondaの交通安全教育のノウハウ



「あやとりい 長寿編」の開発を担当した相浦和則
元・本田技研工業(株)安全運転普及本部
(現:三重県警察交通安全教育技能指導員)



Hondaならではの先進性・独自性と 地域の指導者が使いやすく、 受講する高齢者が納得できるものをめざす

高齢歩行者向け交通安全教育プログラムの 先駆けとなった「あやとりい 長寿編」

安全運転普及本部(以下、安運本部)が、最初に高齢歩行者向けの交通安全教育プログラム「あやとりい[※] 長寿編」を開発したのは2004年。きっかけは、三重県鈴鹿市内で高齢歩行者が被害者となる交通事故が増え始めたことでした。鈴鹿市から、こうした事故を防ぐための教育手法が求められたのです。当時、安運本部で「あやとりい 長寿編」の開発を担当した相浦和則は「高齢歩行者に対する啓発パンフレット等はありませんでしたが、どのような教育を行えばいいかという情報はほとんどありませんでした。そこで、交通指導員の方々の参考になるマニュアルのようなものをつくれれば、鈴鹿市だけでなく、全国的にも高齢歩行者への教育が活発に行われるのではないかと思います」と振り返ります。

相浦はすぐに「あやとりい 長寿編」の原型となる指導マニュアルを作成。そして、「実際の現場で使ってみなければわからないし、鈴鹿市以外でも受け入れられるものにした」と三重県、岐阜県、静岡県などの交通指導員の方々にマニュアルに沿って、各県の高齢者に交通安全教育を実施してもらいました。すると、多くの方から「こ

れをもとに勉強すれば、高齢者にわかりやすい指導ができる」という反響があったのです。マニュアルの完成をめざし、相浦は「あやとりい 長寿編」の重点指導項目を「歩く」「止まる」「よく観る・聞く」「まっすぐ渡る」と絞り込みます。さらに、高齢者が気楽に参加できる内容にする、文字情報は必要最低限にする、準備にもあまり時間がかからないようにすることにもこだわりました。こうして完成した「あやとりい 長寿編」は、全国各地の交通指導員の方々に活用されています。このように、実際の現場に何度も足を運び、指導されている方の声を聞き、プログラムの開発を行ったのです。

道路横断中に潜む危険を 高齢者に気づいていただくために

それから10年後の2014年、安運本部は高齢歩行者向けの新たな教育プログラムの開発に着手しました。近年、交通事故死者数に占める高齢歩行者の割合が高まっていることから、以前にも増して高齢者の歩行中の事故防止への注目が集まっています。(公財)交通事故総合分析センターの資料によると、高齢者が単路で横断歩道以外を横断中に死傷したケースでは死者数、負傷者数ともに横断前半よりも横断後半の構成率が高くなっています。「あやとりい 長寿編」では、歩行時や自転車乗用時など様々な状況に合わせた学習内容としましたが、今回制作したプログラムで

地域の指導者の知識と経験



高齢歩行者向けの教育プログラム 「“安全な道路の渡り方について” 交通安全教室」を活用した指導者の声



滝沢市 市民環境部防災防犯課
交通安全教育専門員
北川郁子さん

参加者の反応が良かったので、高齢者の方にも目から入ってくる情報は説得力があると感じました。このプログラムは、自分たちで内容をアレンジすることができるので使いやすいと思います。



(一財)長野県交通安全教育支援センター
主任指導員
梶田さな恵さん

道路横断シミュレーションなどの臨場感のある映像を使用するのは、指導する上でたいへん有効です。パソコンとプロジェクターがあれば簡単にできますので、このプログラムを取り入れていきます。

は、横断後半に左側から来るクルマとの事故を防ぐための内容に絞り、安全行動を高齢者に理解してもらうことをテーマとしました。そして、ここでも現場の意見や要望をヒアリングするために、全国各地の交通指導員の方々に集まっていただき、「教材研究会」を開催しました。Hondaのノウハウに、現場で活躍する地域の指導者の知識と経験を組み合わせることで、より良いプログラムができると考えます。「教材研究会」で得た意見や要望をもとに、事故にいたる過程を歩行者とドライバー、それぞれの目線で再現する映像にし、道路横断中に潜む危険を高齢者に気づいていただく参加体験型の内容としました。さらに、道路横断シミュレーションによって意識と行動のミスマッチを理解していただくという独自の工夫を加えました。

開発の途中段階で、こうした内容に対して交通指導員の方々からアドバイスをいただく機会を設けたり、交通指導員の方々による



現場での試行も実施しました。試行に参加した高齢者の方は「ドライバー目線の映像を見て、歩行者は見落とされやすいことが理解できました。今後は、クルマが完全にいなくなってから渡るようにしたい」と話しています。そして今年11月、「安全な道路の渡り方について」交通安全教室として完成しました。これを全国各地の交通安全教育の現場に普及させ、高齢歩行者が被害者となる事故を1件でも減らしていきたいと考えています。

今、安運本部は高齢歩行者と同様の手法で、幼児・児童向け教育プログラムの開発を進めています。今後も、地域の指導者の声に耳を傾け、現場の実態を踏まえた、Hondaらしい先進性・独自性のある教育プログラムの開発に取り組んでいきます。

“安全な道路の渡り方について”交通安全教室

プログラム(DVD)には、以下の4つのポイントを高齢者に理解してもらうための映像や画像(図、イラスト)が収録されています。

- ①クルマが通り過ぎても渡らず、左側からクルマが近づいていないか確認する。
- ②近くを見ると遠くのものが見えなくなるので、体全体(目とへそ)で安全確認する。
- ③道路横断時は、センターライン(道路の中央付近)手前でクルマが近づいていないか、もう一度確認する。
- ④夜間は反射材を着用し、クルマのライトが見えたら待つ。

●プログラムの流れ(昼間編の場合)

	時間	内容
導入	5分	プログラムの目的を理解してもらう。
高齢者の交通事故の特徴	10分	高齢者の道路横断中の事故の特徴を提示し、どんな行動が危険かを考えてもらう。
映像による体験	5分	歩行者目線とドライバー目線の映像を見せ、道路横断中に潜む危険に気づいてもらう。代表者に道路横断シミュレーションを体験してもらう。
まとめ	10分	「思い込み」の危険に気づいてもらい、安全な横断方法を理解してもらう。

開発が進む、幼児・児童向け 教育プログラム

幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムは、楽しく交通安全を学んでほしいという想いのもと、「あやとりい ひよこ編」で交通ルールを習得した子どもの次のプログラムと位置づけ、開発を進めています。

ごあいさつ



本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部 本部長

峯川 尚

日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動に取り組んでまいりましたが、これも皆様のお力添えがあってのもの、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

私どもはモビリティをつくるメーカーの使命として「事故に遭わない社会」の実現のために「Safety for Everyone」というグローバル安全スローガンに基づき、世界6極（北米、南米、欧州、アジア・大洋州、中国、日本）において、各地域の事情に応じた活動を推進しています。「ヒト（安全教育）」「テクノロジー（安全技術）」「コミュニケーション（安全情報）」という3つの領域を進化、相互に連携させることによって、運転者のみならず、歩行者・自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざしています。

日本における交通事故の情勢を見ますと、平成26年は交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,113人と14年連続で減少するとともに、負傷者数、交通事故発生件数も10年連続で減少しましたが、本年の状況を見ますと、10月末時点の死者数は昨年と同じ3,296人となり、高齢化の進展とともに、事故死者がこれまでのように低減しにくい状況になってきております。

このような中、世界一安全な道路交通社会をめざすという政府目標に寄与するためには、さらに一段と取り組みの進化が求められると思います。Hondaとしましては「Honda SENSING（ホンダ センシング）」と総称する先進安全運転支援システムの普及拡大を行うことで、対歩行者事故、正面衝突、工作物衝突などの事故低減が期待できると考えています。まずはこのような技術を着実に普及させながら、その先にあるより高度な安全運転支援技術の実用化をめざしてまいりたいと思います。また、1件でも交通事故を減らしたいとの思いから、具体的な道路環境の改善をめざし、「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜むスポットを各県の警察や自治体

に提言する活動を昨年より進めておりますが、今年は、通学路の問題箇所を保護者などから収集するツールとして活用するといった新たな利用方法も出てきており、プローブ情報の活用などとあわせ、情報という観点からも交通事故防止に向けた取り組みを進めてまいります。

安全教育の領域につきましても、これまで実施してきました、販売店店頭での活動、交通教育センターにおける活動、地域の行政、関係団体と連携した普及活動についても過去にとらわれずに、現場の実態をよく見て、お客様や関係している方々の声に耳を傾けながら、新たな視点や発想を加え進化させていく必要があると思っています。

具体的には、Hondaの四輪販売会社では、今までの店頭活動に加え、スタッフ自らが近隣の幼稚園・保育園に出向いて園児に交通安全指導を行うといった、地域に密着した活動がスタートしました。また、クルマの運転復帰をめざす高次脳機能障がい者向けにHondaが開発した安全運転教育プログラムは、交通教育センターで活用いただいておりますが、更に拡大させていくため、Hondaと連携する自動車教習所が近隣の病院やリハビリ施設と協力して、安全に運転を再開するというプロセス構築に着手しています。また、リハビリテーションセンターやデイケアセンターを活用される高齢者の方も今後ますます増えていくことから、そうした方々の安全で安心な移動に向けた取り組みも少しずつですが、進んできております。

交通安全教育を広げていくためには、もとよりHondaだけでは限りがあります。一人でも多くの人に、身近な場所で親しみながら交通安全を学んでもらえる環境づくりのお手伝いを今後も進めていけるよう、これまで以上に行政、関係団体、地域社会をはじめ志を同じくする多くの皆様と連携を深めてまいりたいと思います。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Hondaの安全に対する考え方

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト(ソフト)」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー(ハード)」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト(ソフト)」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡し安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり

交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が不可欠です。そのため、Hondaは手渡し安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同して下さる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり

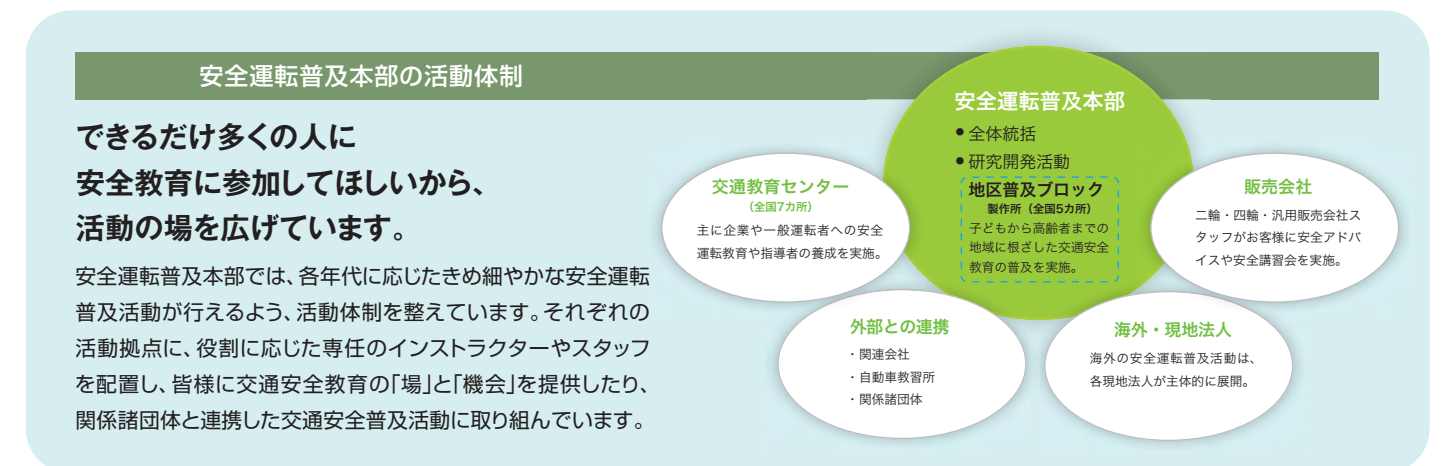
交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発

学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の1つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験いただける各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。



新たな視点や発想による、取り組みの進化をめざす

安全運転普及本部 事務局長 吉田 宏樹

重点課題

今年度は3ヶ年計画の2年目にあたり、昨年度に引き続き「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」という方針のもと、以下の3つの重点課題に取り組んでまいりました。

1. 教育ソフトウェアの開発と導入
2. 普及活動の変革と進化
3. 海外における 二輪事故低減の実現

1 教育ソフトウェアの開発と導入

「高齢歩行者への新たな教育プログラムの開発」

交通事故死者数に占める高齢者(65歳以上)の割合は2010年に初めて50%を越え、昨年は53.3%となりました。これを状態別にみると、歩行中が半数近く(48.5%)となっており、まずは高齢歩行者の事故を減らすことが全体の死者数低減につながると考えました。そこで、Hondaは高齢歩行者の事故低減に寄与するための新たな教育プログラム(P4～5参照)を開発し、現在、その普及を進めています。このプログラムは、道路横断中の事故が多いことから、例えば映像を使って道路横断を疑似体験できる内容を取り入れるなど、高齢者に意識と行動のミスマッチを気づいてもらえる構成と内容になっています。

開発にあたっては、現場で指導にあたっている交通指導員の皆様からのご意見をいただき、現場で使いやすい、高齢者に説得性のあるものとして検討を重ねました。改めましてご協力いただきました交通指導員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また現在、幼児・児童向けの教育プログラムの開発にも着手しています。こちらも高齢歩行者と同様に、現場の交通指導員の皆様からのご意見をいただき、Hondaらしい教育プログラムの完成をめざしています。

「SAFETY MAPの活用領域の拡大に向けて」

SAFETY MAPは地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップです。私どもは、SAFETY MAPの情報をもとにした道路環境の改善提案によって1件でも事故を減らすための取り組みを進めています。福井県の交通安全推進連絡協議会では各市町にSAFETY MAPの活用を促進し、ハードとソフトの両面での安全対策に向けた取り組みを開始したところです。また、SAFETY MAPの新たな活用領域の拡大をめざした調査研究も有識者と進めています。

2 普及活動の変革と進化

「お身体の不自由な方々を対象にした交通安全の取り組み」

昨年に引き続き、高次脳機能障がいの方がクルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」や「自操安全運転プログラム」の活用拡大に向けて取り組んでおります。私どものソフトを導入していただいている病院が増えたことで、こうした病院同士が連携し、共通の課題解決に取り組むケースも生まれてきています。具体的には、四国4県の病院が連携し、患者様のリハビリのスタートから運転復帰までのプロセスを構築するためにデータ収集やその解析を進め、評価方法や判断基準づくりをめざしています。私どもが、病院間の連携活動をサポートすることで点から線、そして面への展開をめざし、地域モデルの確立を進めてまいります。

一方「自操安全運転プログラム」をもっと身近な場所で訓練できるように、現在Hondaの交通教育センターで実施している実車訓練を、私どもと連携している自動車教習所でも可能とするため、その教習所にソフトとプログラムを導入していただき、近隣の病院やリハビリ施設と連携を取った普及拡大に着手しております。この取り組みは、青森県、沖縄県でスタートしました。

また、高齢化が進むにつれ、病院やデイケアサービスへのクルマによる送迎も増えており、こうした送迎時における利用者の安全安心の確保にも取り組んでおります。群馬県では昨年よりスタートした福祉サービス送迎運転者講習会の実技教育として、私どもが開発した「移送安全運転プログラム」を取り入れ、来年から実技講習がスタートします。

「交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出」

●地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援

お客様や地域の皆様との接点である四輪販売会社(Honda Cars)との連携を強化し、各社の交通安全活動の支援を進めています。その1つとして、Honda Cars各社のスタッフがショールームへ来店いただいたお子様や、近隣にある幼稚園・保育園の園児にHondaの幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を活用した交通安全教室を行うなどの地域に密着した活動を始めています。

運転者向けには、Honda Carsのスタッフが携帯するタブレット端末へ納車時にお渡しする「セーフティドライビングガイド」をインストールし、納車時以外でも適宜安全アドバイスができるようにしました。また、Honda のホームページ内にある動画による危険予測トレーニングもタブレット端末のコンテンツとして提供し、運転時だけでなく、歩行時や自転車利用時の安全についてもアドバイスが可能となりました。

●他業種との連携による新たな普及活動

普及活動の場と機会の拡大に向け、私どもは他業種との連携も進めています。今年度は自転車専門店のイオンバイク(株)と連携し、イオンバイクの「場と機会」、私どもの「ノウハウ」という双方の強みを持ち寄り、子どもとその保護者を対象にした自転車教室をスタートいたしました。教室での実践を通じて、自転車教育のノウハウをイオンバイクのスタッフにお伝えし、今後、全国にある同社の店舗で自転車教育の拡大が期待できます。私どもも、同社の活動に継続して連携していこうと考えております。

●ウェブサイトを使った交通安全情報の提供

インターネットによる情報発信をさらに有効なツールとして活用するため、ホームページを見直し、すぐにできる運転習慣をわかりやすく紹介するコンテンツを追加するなど、交通安全指導者だけでなく一般の皆様にもわかりやすい情報を増やしました。

また、交通安全について考えていただくためのきっかけづくりとして、交通安全をテーマとした動画やポスターを一般の皆様から募集し、コンテストを実施しています。昨年に引き続き、今年も多数のご応募をいただきました。

3 海外における 二輪事故低減の実現

海外における、お客様や地域社会への交通安全普及活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開し、私どもはその支援をしています。今年度はHondaが台湾で大型二輪車の販売を始めるに伴い、事前に現地法人と販売店のインストラクターを養成する研修を日本で実施しました。販売開始以降も展開に応じた支援を継続しております。今後も、海外各国の現地の実態に合わせ、販売店などにお客様に適切な安全運転教育ができる支援を進めてまいります。

2016年に向けて

来年度は、私どもの3ヶ年計画最終年となりますので、先の3つの重点課題のもと、昨年、今年取り組んだ様々な活動の質を向上させるとともに、新たなテーマにも取り組み、活動を進化させてまいります。

関係各位のご協力に感謝申し上げますとともに、来年もご支援、ご協力のほど、よろしくごお願い申し上げます。

※各重点課題の活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しております。

時代や社会のニーズに合わせ進化させた 先進性・独自性のある教育プログラム



時代や社会などのニーズに合わせた先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などのソフトウェアの開発を推進しています。そして、普及拡大に努めています。

高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための 新たな教育プログラムを開発

今年開発が完了した高齢歩行者向けの教育プログラム「安全な道路の渡り方について」交通安全教室(P4～5参照)は、道路横断中の事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解していただくことを目的としています。横断後半に左側から来るクルマと事故に遭うケースが多いことから、事故にいたる過程を歩行者とドライバー各々の目線で再現した映像を使い、こうした事故の原因を高齢者に考えていただくことで安全行動への理解が深まる内容となっています。また、道路横断シミュレーションの体験を通じて、意識と行動のミスマッチに気づいていただくことができ、指導者が高齢者に事故を未然に防ぐ方法をわかりやすく解説できます。

開発にあたっては、交通指導員の方々からの意見を数多く反映させ、現場で使いやすいものをめざしました。プログラムは「昼間編」「視野編」「夜間編」に分かれていますので、このうちの一部を交通指導員の方々が行ってきた教育手法と組み合わせることも可能です。



歩行者とドライバーそれぞれの目線で事故の過程を再現した映像



道路横断シミュレーションの体験

幼児・児童向けへの 新たなプログラム開発に着手

12歳以下の交通事故負傷者数は減少傾向にありますが、2014年はおよそ3万5000人を数え、依然として大きな課題です。また、昨年開催した「教材研究会」では幼児・児童向けのプログラムとして、参加した交通指導員の方々から、既に活用していただいているHondaの交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」の発展的なものを求める意見が数多く寄せられました。そこでHondaでは、幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムの開発に着手しました。楽し

企業・団体の運転者を対象にした 教育プログラムの進化

企業・団体の安全運転教育に対するニーズに対応して、教育効果をさらに高めるため、Hondaの交通教育センター(P27参照)の研修で使用する教育プログラムの拡充を図っています。

インストラクターが企業・団体の運転者の同乗指導の際に、より効果的なアドバイスができるよう「路上運転診断プログラム」を開発しました。ドライバーが路上運転する際の行動特性を同乗するインストラクターがチェックし、結果と改善点を

全国5会場で開催された「交通安全教育プログラム勉強会」で開発の方向性が紹介された幼児・児童向けの新たな教育プログラム



く交通安全を学んでほしいという想いのもと、「あやとりい ひよこ編」で交通ルールを習得した子どもの次のプログラムと位置づけ開発しています。



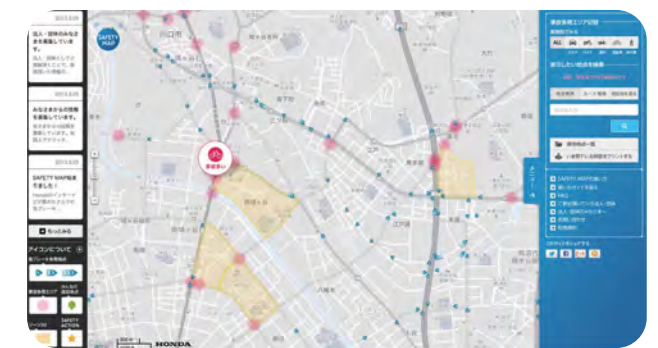
Hondaの交通教育センターでの「路上運転診断プログラム」を使った研修

走行終了後すぐにパソコンの画面を見せてフィードバックできるようにしています。さらに来年の導入をめざして、運転者に自分の感情や心理状態を客観視することを習慣化してもらうことを目的としたプログラムの開発も進めています。

交通事故防止への 「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用いただくことを目的に制作しました。個人の利用だけでなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えてきています。Hondaはさらに多くの企業・団体にはたらかせることにより、「SAFETY MAP」を交通事故低減に役立てていただきたいと考えています。例えば、福井県では各市町が「SAFETY MAP」に表示される急ブレーキ多発地点や事故多発地点が通学路や子どもが集まる施設の近辺かどうかを確認し、該当する箇所については現地調査を行うことで、急ブレーキや事故が発生する原因の特定をめざしています。これをもとに県と各市町では今後、道路環境の改良などのハードと、児童の登下校の見守り活動や啓発活動などのソフトの両面での安全対策を実施する予定です。

また、有識者と共同で「SAFETY MAP」に投稿された主観的な危険情報や急ブレーキ多発地点データと事故発生との因果関係を分析するとともに、交通安全の教育現場でどのように役立てることができるかという研究なども行っています。



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。<http://safetymap.jp/>



福井県が「SAFETY MAP」を交通事故防止に活用

現場で活躍する地域の指導者と連携した普及活動の強化



各地域に交通安全教育を定着させるためには、現場で活躍する指導者の力が不可欠です。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員*、学校の先生方に対し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材、その指導方法を提供するとともに、新たなノウハウの創出に向けた情報交換を積極的に行っています。

*交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

地域の指導者が必要とする 新たなノウハウ創出に向けた情報交換の場づくり

Hondaでは、全国5カ所の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。

8月に各地区普及ブロックが開催した「交通安全教育プログラム勉強会(以下、勉強会)」では高齢歩行者向けの新たな教育プログラム(P10参照)を発表し、その内容と指導方法について解説しました。また現在、Hondaが開発中の幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムの概要(P11参照)も紹介。勉強会では開発の方向性を理解していただいた上で、実際の現場で使用する際の課題などについて話を伺った他、新たなアイデアも出し合っていました。現場で指導を担う方の知識・経験と、Hondaのノウハウを組み合わせることにより、効果的で使いやすいプログラムを開発していきます。そして、ここで得られた意見や要望は今後の開発に活かしていく予定です。

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
 埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
 浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
 鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
 熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL:096-293-3206



全国5会場で140名が参加した「交通安全教育プログラム勉強会」

地域の指導者による Hondaの教育プログラムの活用

高齢歩行者向けの教育プログラムは勉強会に参加した交通指導員の方々を中心に活用が始まっています。岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々には、市内の高齢者を対象にした交通安全教室で使用。歩行者とドライバーの各々の目線で道路横断中事故の過程を再現した映像や道路横断シミュレーションを使って、なぜ事故が起きるのか、安全に道路を横断するためにはどうすればいいか、高齢者に理解してもらいました。また、(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々には、交通安全のイベントでの寸劇の中に道路横断シミュレーションを取り入れました。

活用していただいた方々には「道路横断シミュレーションなどで臨場感のある映像を使えるのは、指導する上でたいへん有効」「高齢者の方への説得力があり、自分たちで内容をアレンジできるので使いやすい」と好評です。来年以降、さらに多くの指導者に活用していただけるよう普及拡大をめざしていきます。



岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々による交通安全教室



(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々による交通安全教室

高校主体による交通安全教育を 実施するためのマニュアル制作を開始

高校生年代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期です。Hondaは生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守れるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを2012年に開発しました。それを全国の高校に広げるとともに、各高校が交通安全教育を継続して実施できるための体制づくりもサポートしています。そして今年、活動意志のある高校が自主的に運営できるよう、マニュアルの制作を開始し、現在、試作版を使って検証を重ねています。このマニュアル(DVD)には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「実技」「感受性教育※」といったプログラムが収録されています。「実技」では「内容の説明」「デモンストレーション」「実走行」「まとめ」などについて映像を使って解説しています。

群馬県立太田工業高等学校は2013年からHondaの高校生交通安全教育を取り入れています。3年目を迎えた今年、同校の先生方だけで生徒への交通安全教育を実施。マニュアル試作版を活用して自転車の実技と座学を行い、生徒に相手を思いやることや、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらいました。同校生徒指導部交通係の中島雅人教諭は「マニュアルによって、指導を担当する教員同士

高校生交通安全教育指導マニュアル 実技



詳細については、指導マニュアルをご覧ください

ここをクリック

「高校生交通安全教育指導マニュアル」



群馬県立太田工業高等学校の先生方による自転車教育

の意思統一がスムーズにできました。実技でのコースの設定や指導の流れ、生徒にアドバイスすべきポイントが明確になっていたため、交通安全指導の経験がない教員にもわかりやすかったと思います」と話しています。今後検証を重ね、今期中の完成をめざし進めていきます。

※感受性教育とは=交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。

一人でも多くの方に 交通安全教育を拡大



一人でも多くの方の安全を守りたいという考えのもと、交通安全の普及拡大努めております。普及活動の「場と機会」を拡大するため、異業種との連携に取り組むなど、子どもから大人までより多くの方々に安全意識を高めてもらうことを目的に様々な場所で交通安全教育を展開しています。

他業種との協働展開による 交通安全活動の拡大

以前から学校や公民館での交通安全教室などは広く行われてきましたが、Hondaでは全国での交通安全活動を行う場と機会を増やしたいと考え、他業種との協働による取り組みを模索しました。

イオンバイク(株)は全国に300店以上の店舗を展開する自転車専門店、お客様と自転車の安全・安心を追求しており、同社とHondaは同じ想いを持っていることから連携することとなりました。両社の強みを持ち寄ることで、互いにない部分を補完し、活動をより充実させることが目的です。イオンバイクが集客やスタッフなど「場と機会の提供」、そして専門スタッフによる自転車の点検、Hondaが指導方法など「ノウハウの提供」を担い、9月に「親子で学ぶ 自転車乗り方教室(以下、教室)」(後援:さいたま市)をイオンモール浦和美園(埼玉県さいたま市)で開催しました。対象は補助輪を外すことを検討していたり、補助輪無しでは走行に不安がある子どもと、その保護



イオンバイクとHondaによる「親子で学ぶ 自転車乗り方教室」

者。この教室の目的は子どもが時間内で自転車に乗れるようにすることではなく、発進する前に右後方を確認する、両手でブレーキをかけて停止できるようになるなど、安全行動の必要性を保護者に伝えることに重点を置いています。そして、教室では保護者が先生役となることで、家庭でも引き続き、親子で練習できるようにしています。

今回は39名の子どもが参加し、保護者からは「私たちでは気づけない安全の観点での指導も盛り込まれていて、ありがたい」という感想が聞かれました。イオンバイク(株)取締役営業企画本部長の矢部勝己さんは「私たちは自転車を販売するだけでなく、お客様に安全に楽しく利用していただくための提案をしていきたいと考えています。今回参加したスタッフが身につけた自転車教育のノウハウを関東圏から全国の店舗へと広げていきたい」と話しています。こうしたイオンバイクの取り組みにHondaも協力していく予定です。

Honda Carsとの連携による 交通安全教育の「場と機会」の拡大

埼玉県内のHonda Cars(四輪販売会社)で構成する埼玉県Honda会はHondaとの共催で、国営武蔵丘陵森林公園(埼玉県滑川町)のイベント「Outdoor Park in 森林公園」の中で、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい」などを使った幼児・児童向けの交通安全教室を実施しました。埼玉県Honda会会長の田口忍さんは、「大勢の人が集まるイベントで交通安全教室を実施することによって、一人でも多くのお客様に交通安全に目を向けていただけますし、私たちHonda Cars全体の交通安全に対する意識も高まると考えました」と開催の意義を話しています。今後も、地域に密着した交通安全教育の新たな「場と機会」の拡大にチャレンジしてまいります。

交通安全の動画やポスターを募集し 参加者の安全意識醸成をめざすコンテストを実施

昨年に引き続き、今年も7月から9月にかけてHondaのホームページで交通安全の動画やポスターを一般の方々から募集しました。第2回となる今回のテーマは「みらいの交通社会～いろいろな乗り物を運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車がこうなったらもっと安全になるのでは?～」ということを30秒の動画やポスターとして表現してもらい、コンテストを実施しました。コンテストに参加することで少しでも交通安全について考え、自ら安全な行動を意識してほしいという想いのもとに開催しています。入選作品は、Hondaのホームページで公開しています。



「親子で学ぶ 自転車乗り方教室」での発進前の右後方の確認などに重点を置いた基本練習



埼玉県Honda会による国営武蔵丘陵森林公園での交通安全教室



ポスターの部・大賞



動画の部・大賞

お身体の不自由な方々の 安全安心な移動へのサポート



身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために、運転の評価や訓練の機会の提供と、地域における運転復帰プロセス全体の支援として、病院や福祉団体、自動車教習所との連携を進めています。また、今後の高齢化の進展により増えてくる、デイケアセンターなどに車で送迎される方々の「安全安心な移動」の実現にも取り組み始めました。

福祉領域の安全運転教育を 自動車教習所を核に普及拡大

高次脳機能障がいなどにより加療中の方々は社会復帰をめざしてリハビリテーションに取り組み、その中には運転復帰を希望される方もたくさんいます。こうしたリハビリ中の方々の運転に対する評価や訓練をサポートするため、Hondaは「自操安全運転プログラム」*(以下、自操プログラム)を開発し、全国の交通教育センターで受講できる体制を整え、活用いただいています。また、こうした「場」の拡大をめざし、Hondaが連携している自動車教習所の協力を得て病院やリハビリ施設での活用拡大を図っています。

青森県では(株)ムジコ・クリエイティブが自操プログラムを同社経営の4つの自動車教習所(弘前モータースクール、青森モータースクール、八戸モータースクール、浪岡モータースクール)での受講者の受け入れに向け、同社とHondaは4校の教習指導員を対象とした自操プログラムの研修会を弘前モータースクールで実施しました。研修会に参加した教習指導員の方々からは



弘前モータースクールでの自操安全運転プログラム研修会

「青森県は公共交通機関が充実していない地域が多いので、運転は生活していく上でとても重要なことです。自操プログラムによって、一人でも多くの方々の運転復帰をお手伝いしたい」「障がいをお持ちの方は不安をかかえた状態で教習所にいらっしゃるはず。そうした不安を少しでも和らげられる対応を教習所全体で考えたいと思います」という声が聞かれました。この他、沖縄県の津嘉山自動車学校も自操プログラムを導入し、来年は他の地域にも拡大していく予定です。

※リハビリ加療中の方々の運転復帰を車両訓練でサポートし、より安全に自由な移動を楽しんでいただくことをめざす安全運転プログラム。

病院同士の連携による 運転復帰プロセス構築を支援

四国では、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト(P26参照。以下、ソフト)」を導入している病院が連携して、運転復帰をめざす方々の運転能力の評価方法や判断基準の確立に向けた活動を開始しました。その第一歩として、ソフトや停止状態の実車を使って、運転評価に必要な様々なデータを収集し、検証を行っているところです。四国4県の作業療法士会とともに、Hondaもこうした活動をサポートしています。



津嘉山自動車学校に設置されている「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」



四国4県の病院が連携して活動を開始した運転復帰支援プロジェクト

デイケアセンターなど送迎車の 安全な運行を支援

交通教育センターでは自操プログラムのほか、「移送安全運転プログラム(以下、移送プログラム)」も提供しています。高齢者や障がいをお持ちの方々が施設等へ通うために必要な送迎サービスが増加する中、サービスを提供する方々が、送迎中の利用者への配慮など安全な運行に必要な意識や知識を身につけることができる教育プログラムです。群馬県では、福祉サービス送迎運転者講習会を昨年より開催していますが、このたびは群馬県住民参加型在宅福祉サービス団体連絡会は、来年2月より同講習会に移送プログラムの実技教育を導入します。それに先立ち、今年10月に交通教育センターのインストラクターが講習会担当者や施設管理者、送迎ドライバーへの体験会を実施し、今後の実技導入へに向けた対応を進めています。



群馬県内での導入に向けた「移送安全運転プログラム」の実施

手渡しで安全を伝える活動の さらなる充実に向けて



二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切に手渡しの安全活動を実践しています。Hondaでは、こうした販売会社の店頭活動のさらなる充実と、地域密着とするために交通安全教育プログラムや教材、その指導方法の提供を積極的に実施しております。

より多くのお客様と、 地域の方々の安全を守るために

Honda Cars(四輪販売会社)では店頭での安全アドバイスのさらなる充実に向けて、新たな情報発信をスタートしました。スタッフが携帯するタブレット端末向けに安全運転に関するコンテンツを開発し、納車や点検などでご来店されるお客様へのアドバイスの充実に取り組んでおります。また、Hondaのホームページ内にある動画による危険予測トレーニング(KYT)を来店するお客様に体験していただくためのデモンストレーション映像も作成しました。Honda Cars横浜「平塚中央店」では、この映像をショールーム内にある大型モニターに常時映し、お客様が点検や整備の待ち時間を利用してKYTが体験できる環境づくりを行っています。さらに、幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」の指導ノウハウを31都道府県のHonda Carsに提供し、ショールームやお客様感謝イベント、また近隣の幼稚園・保育

園での園児向け交通安全教室の開催を支援しています。これまでに全国352人(11月末現在)のスタッフを対象に指導ノウハウ勉強会を実施しています。

Honda Cars横浜「平塚中央店」のショールームで常時映しているKYTのデモンストレーション映像



Honda Cars千葉の女性スタッフを対象にした「あやとりい ひよこ編」の勉強会



関係諸団体との積極的な連携によって 交通事故の低減に貢献

安全運転の普及活動を行う関係諸団体の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)は今年15回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国73校131名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。この大会には、全国19校20名の教習指導員の皆様に審判員としてご協力いただいています。



第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車関連団体などの活動への積極的な協力

(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務や、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。また、(一社)日本二輪車普及安全協会が実施する安全運転活動への各種協力や、(一社)日本自動車工業会が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。



第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技



第46回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力



第48回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力

参加体験型の実践教育を主体に 受講者の気づきと理解を促す



全国7カ所にあるHondaの交通教育センター（P27参照）では社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様に参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約9万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体などのニーズに合わせた 教育プログラムをオーダーメイドで提供

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、交通教育センターレインボー埼玉では生活クラブ連合会（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）の新人職員を対象にした安全運転研修を実施しています。参加した新人職員はクランクやS字コースを走行する車両感覚訓練などを通じて、業務で使用するトラックの運転特性と安全運転技術を学びました。同連合会は「新人の段階から、安全に対する基本的な考え方と業務に必要な運転技術を身につけてもらうことができる」と評価しています。



交通教育センターレインボー埼玉での生活クラブ連合会の新人を対象にした安全運転研修

交通教育センターレインボー埼玉の 研修コース拡張

今年は交通教育センターレインボー埼玉に新コースが完成しました。新コースには信号機のある交差点や一時停止標識のある交差点などが設けられるなど、より一般道路の状況に近い法規走行訓練も可能になっています。既存のコースと合わせ、お客様の幅広いニーズに応えられるようになりました。



4月に完成した交通教育センターレインボー埼玉の新コース

企業・団体における交通安全活動の 情報交換を行う場づくり

交通教育センターは企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。今年は、交通教育センターレインボー埼玉・和光が「2015トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催。「職場内の意識と行動で安全・安心な風土の確立」をテーマに、カンダホールディングス（株）や（株）ライドオン・エクスプレスの活動事例が紹介されたほか、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の太田耕平氏による「安全に対する意識を高め、安全運轉行動を実践させるための方法」についての講演が行われました。



トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉（写真は2014年）

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会として、日本および世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。16回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外9カ国からインストラクター67名が選手として参加。事業所ごとの競技ではありますが、大会中は国内外の選手は混成グループを組み、言葉の壁を乗り越え、一体となって二輪・四輪部門の各競技に臨みました。また、運転スキルだけでなく、指導者としての幅広い知識や指導力を向上するため、二輪・四輪の実技を交えた「実技指導力審査」（海外選手は「筆記レポート」）も行いました。



第16回セーフティジャパンインストラクター競技大会

各国の交通事情に即した普及活動を展開



“各国事業所より集まった代表者により活動紹介や意見交換が行われる「Safety Driving Managers Meeting」”

海外におけるお客様や地域社会への交通安全普及活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開しています。その活動は、販売店でのお客様への安全アドバイスや、交通教育センターでの実践教育、女性のお客様や子どもを対象とした安全教育を中心に、政府や関係団体と連携しながら進められています。私どもは各国の交通事情に即した活動が活発に展開されるよう支援を行っています。

台湾における普及活動を担うインストラクターを養成

Honda Taiwanは今年4月から台湾における大型二輪車の販売を開始しました。これに合わせて、販売店でHondaの大型二輪車を利用するお客様に安全運転を伝えるための体制づくりをサポートしています。3月にHonda Taiwanおよび販売店のインストラクター5名は交通教育センターレインボー浜名湖で10日間の研修を受講。このインストラクターが中心となって、お客様向けの納車時アドバイスやライディングスクールなどを開催しています。



交通教育センターレインボー浜名湖でのHonda Taiwanのインストラクター養成研修

各国で活躍しているインストラクターの指導力のレベルアップをめざす

既に各国で活動している現地のインストラクターに対しても、定期的に指導力を向上させるための研修を実施しています。インストラクター競技大会に参加するために来日した機会を活用し、9ヵ国31名のインストラクターがHondaの交通教育センターで座学と実技による研修を受講しました。帰国後、活動のレベルアップおよび活性化を図ることをめざしています。



9ヵ国31名のインストラクターレベルアップ研修

安全運転普及活動 この1年の歩み

記載以外にも、安全運転普及本部では様々な活動を実施しています。

2014	12月	<ul style="list-style-type: none"> ●「幼児交通安全指導者講習」実施(岐阜県、12/1) ●「子ども自転車トレーニングマニュアル講演」開催(埼玉県、12/15)
	2015	<ul style="list-style-type: none"> 1月 <ul style="list-style-type: none"> ●「高齢者教材活用研修会」講演(北海道、1/15～16) ●「沖縄県内病院リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト及び運転復帰勉強会」協力(沖縄県、1/17) ●「愛知県市町村交通安全担当者研修会」協力(愛知県、1/22) ●「移送安全運転プログラム体験会」開催(熊本県、1/30) 2月 <ul style="list-style-type: none"> ●「北関東・東北地区HPI賛同企業 交通安全普及活動報告会・情報交換会」開催(栃木県、2/13) ●「広島県地域交通安全推進協議会・高齢者講習会」協力(広島県、2/27) ●「大津地区親子交通安全教室」開催(熊本県、2/28) ●Honda Taiwanへ「チーフインストラクター養成研修」実施(静岡県、2/28～3/11) 3月 <ul style="list-style-type: none"> ●「熊本県作業療法学会高次脳機能障害生活勉強会塾」協力(熊本県、3/13) ●「熊本セントラル病院内リハビリテーション向け運動能力評価サポートソフト勉強会」講師協力(熊本県、3/14) ●「リハビリテーション向け運動能力評価サポートソフト」を弘前モーターズスクールに導入(青森県、3/25) ●「リハビリテーション向け運動能力評価サポートソフト」を津嘉山自動車学校に導入(沖縄県、3/27) 4月 <ul style="list-style-type: none"> ●交通教育センターレインボー埼玉「新規コース運用(プラザコース2)」開始(埼玉県、4/1～) ●「ALL Honda春のセーフティキャンペーン」実施(4/11～5/31) ●「静岡県交通安全指導員」研修協力(静岡県、4/9) ●奈良県警主催「地域指導者講習」協力(奈良県、4/22) ●岡山県警「自転車講習会」協力(岡山県、4/23) ●(株)ケーシン栃木開発センターでHPI主催「親子交通安全教室」開催(栃木県、4/26) 5月 <ul style="list-style-type: none"> ●小山田記念温泉病院「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」鈴鹿サーキット交通教育センターにて訓練開始(三重県、5/9) ●全日本交通安全協会「二輪車推進委員会特別指導員中央研修会」協力(三重県、5/21～22) 6月 <ul style="list-style-type: none"> ●Honda Carsでの交通安全教室の拡大に向け「あやとり ひよこ勉強会」展開をスタート(6/9～) ●「第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催(三重県6/4～5) ●埼玉県総合リハビリテーションセンター「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」交通教育センターレインボー埼玉にて訓練開始(埼玉県、6/24) 7月 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ケーシン角田開発センター、九州武蔵精密(株)、(株)ケーシン狭山工場、(株)ショーワ御殿場工場でHPI主催「親子交通安全教室」開催(宮城県、熊本県、埼玉県、静岡県、7/4・11・12・18) ●「浜松地区親子交通安全教室」開催(静岡、7/12) ●弘前モーターズスクール、青森モーターズスクール、八戸モーターズスクール、浪岡モーターズスクールで「自撮安全運転プログラム勉強会」開催(青森県、7/13～14) ●埼玉県地域方面別交通安全推進委員会にて講演(埼玉県、7/8・14・21・27) 8月 <ul style="list-style-type: none"> ●「第48回二輪車安全運転全国大会」に審判派遣協力(三重県、8/1～2) ●「福井県交通安全推進連絡協議会」にてSAFETY MAP活用提案(福井県、8/7) ●「交通安全教育プログラム勉強会」開催(熊本県、岐阜県、福島県、埼玉県、大阪府、8/3・18・20・24・27) 9月 <ul style="list-style-type: none"> ●苫小牧市で「高齢者プログラム活用研修会」講演(北海道、9/1) ●日信工業(株)、トビーファスナー工業(株)松本工場でHPI主催「親子交通安全教室」開催(長野県、9/6・12) ●「ALL Honda秋のセーフティキャンペーン」実施(9/19～10/31) ●交通教育センターレインボー埼玉にてホンダモーターサイクルジャパン主催「第1回 ナイスミドルのためのスマートライディングスクール」実施(埼玉県、9/21) ●鈴鹿サーキット交通教育センター「シニアふれあいミーティング」実施(三重県、9/21) 10月 <ul style="list-style-type: none"> ●Honda海外事業所インストラクター対象レベルアップ研修開催(静岡県、三重県、10/8～13) ●警察庁「第46回全国白バイ安全運転競技大会」審判派遣協力(茨城県、10/10～11) ●「海外Safety Driving Managers Meeting」開催(三重県、10/14) ●「第16回セーフティジャパンインストラクター安全運転競技大会」開催(三重県、10/15～16) ●移送安全運転プログラム体験・地域実技モデル検討会開催(群馬県、10/23) ●PT Astra Honda Motor「チーフインストラクター研修」実施(埼玉県、10/17～25) 11月 <ul style="list-style-type: none"> ●富山自動車学校・富山県ホンダ会と共催で「セーフティフェスティバルin富山」開催(富山県、11/3) ●テイ・エス テック(株)埼玉工場でHPI主催「親子交通安全教室」開催(埼玉県、11/8) ●武蔵精密工業(株)でHPI主催「親子交通安全教室」開催(愛知県、11/14) ●国営武蔵丘陵森林公園「Outdoor Park in 森林公園」埼玉県ホンダ会と共同出展(埼玉県、11/15) ●交通教育センターレインボー浜名湖主催、交通安全イベント「浜名湖虹色フェスタ2015」開催(静岡県、11/21) ●交通教育センターレインボー埼玉&和光主催で「2015トラフィックセーフティ・フォーラムin埼玉」を大宮ソニックシティにて開催(埼玉県、11/25) ●「高齢歩行者プログラム」完成・配布(11月末)

2015年安全運転普及活動動員数 (2015年1月~12月末見込み)

Hondaグループ活動

地域普及活動

	指導者	参加者
あやとりシリーズ	552	7,723
自転車シミュレーター教育	25	12,667
いきいき運転講座	2	626
シルバー楽集大学	32	191
交通安全ビデオ講座	13	188
高校生教育	-	74,364
その他のイベント	118	2,740

交通教育センター

企業向け四輪講習	3,675	43,358
企業向け二輪講習	1,302	4,730
個人向け四輪講習	-	2,516
個人向け二輪講習	-	21,863
その他 ※安全運転管理者講習 反映	0	7,220
Hondaグループ活動合計	5,719	178,186

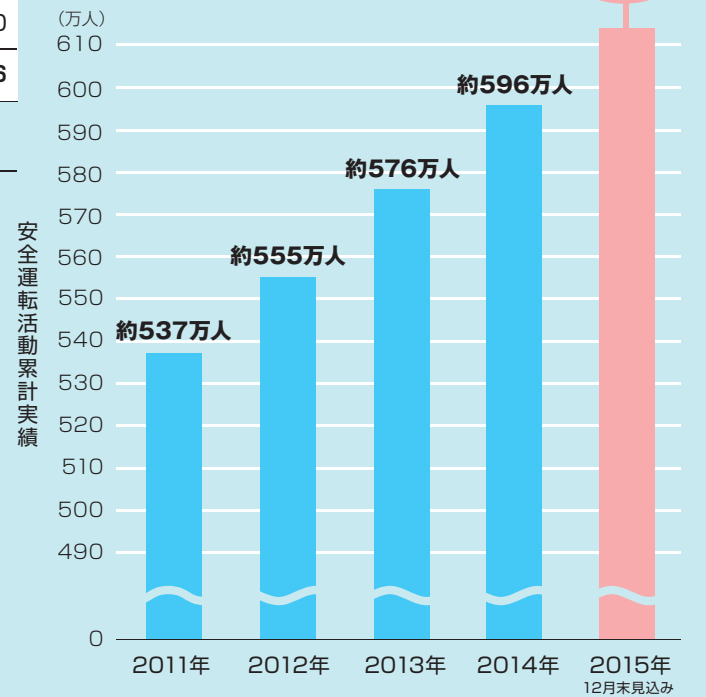
総合計 **183,905**

地域連携活動

	指導者	参加者
地域普及活動	399	447,391
教習所	15	63,459
その他イベント	-	116,596
地域連携活動合計	414	627,446
総合計		627,860

2015年安全運転普及活動動員数累計

※Hondaグループ活動、1970~2015年12月末見込み



安全運転普及活動一覧

Hondaグループ活動

活動の場	活動内容	指導者	主な対象				
			子ども	学生	一般・指導者	高齢者	
国内	四輪 販売会社	店頭安全アドバイス/安全ミニ講習会/ドライビングスクール/地域の交通安全活動協力			●	●	●
	二輪 セーフティサポートディーラー*	店頭安全アドバイス/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力			●	●	●
	汎用	店頭安全アドバイス					●
	交通教育センター	運転者、指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会/各年代別講習	交通安全センターインストラクター	●	●	●	●
	安全運転普及本部 地区普及ブロック	地域の交通安全活動協力/指導者養成協力	安全運転インストラクター	●	●	●	●
	Honda事業所	従業員への交通安全指導/地域の安全運転指導	安全運転インストラクター				●
	Honda関連会社	地域の交通安全活動協力	Honda パートナーシップインストラクター	●	●	●	●
	自動車教習所との連携	地域の交通安全活動協力/二輪・四輪スクール	教習指導員	●	●	●	●
	業界活動	交通安全キャンペーン/交通安全教育プログラムの編纂/指導者養成協力		●	●	●	●
	海外 現地法人	販売拠点 (四輪・二輪)	店頭安全アドバイス/ドライビングスクール/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター	●	●	●
交通教育センター		指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング/地域の交通安全活動協力/運転免許取得講習/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター	●	●	●	●

※ セーフティサポートディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。



安全運転・交通安全教育に関する情報や教材をホームページ公開しています

ホームページ「交通安全への取り組み」では、Honda安全運転普及本部で提供している教育機器や発行物、お子さまからシニアまで様々な方を対象とした教育教材などHondaオリジナルの交通安全情報をお届けしています。「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっており、教材の購入も可能です。

そのほかにも、イラストや動画で分かりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング (KYT)」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」などバラエティに富んだコンテンツを公開しています。

また、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「SJ」を通じて、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。学校や地域の交通安全教室でぜひご活用ください。



<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/publish/>

安全運転教育機器のご案内

安全運転普及活動に長年携わった経験を活かし、シミュレーターや危険予測教育機器など、様々な交通安全の現場で活用いただくための教育機器を提供しています。



Honda ライディングトレーナー

手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行えます。



Honda セーフティナビ

「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できます。
リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト
 四輪での運転復帰に向けて運転に対する評価・訓練をサポートするためのソフトで、運転環境の模擬的な再現により、運転操作における手足の複合的動作を楽しみながら行うことができます。



Honda自転車シミュレーター

自転車を運転する際に起こる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図ります。
 ※小学生～高齢者まですべての世代にご利用いただいております。

第2回「交通安全動画・ポスター」コンテスト受賞作品

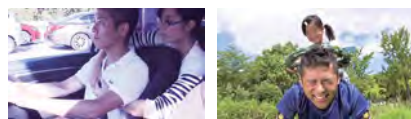
第1回に引き続き、今回も大変多くの応募をいただきました。

p15では大賞となった2作品を紹介しましたが、その他の優秀賞、Honda賞の受賞作品を紹介します。

応募テーマ **みらいの交通社会**
 ～いろいろな乗り物を運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車がこうなったらもっと安全になるのでは?～

動画の部

優秀賞



Honda賞



ポスターの部

優秀賞



Honda賞



安全運転普及活動拠点

交通教育センター

ホンダ 交通安全 検索 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/center/>

- アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ
TEL.0285-64-0100
- 交通教育センターレインボー埼玉
TEL.049-297-4111
- 交通教育センターレインボー和光
TEL.048-461-1101
- 交通教育センターレインボー浜名湖
TEL.053-527-1131
- 鈴鹿サーキット交通教育センター
TEL.059-378-0387
- 交通教育センターレインボー福岡
TEL.092-963-1421
- 交通教育センターレインボー熊本
TEL.096-293-1370



交通教育センター	
センター数	7
指導者数	77名
四輪研修車両	337台
二輪研修車両	1,042台

自動車教習所(Hondaグループ)	
教習所数	2
指導者数	115名
四輪教習車両	151台
二輪教習車両	97台

2015年10月末現在

交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Hondaの交通教育センターでは、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育や社内外の指導者養成を行っています。個人のお客様向けには、クルマやバイクの魅力を実感いただきながら、楽しく安全運転の知識を身につけていただける様々なコースを用意しています。

HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)

HMSは、車両の取り回しや運転姿勢、ライディングの基本である「走る・曲がる・止まる」を身につけていただく参加体験型のスクールです。専門のインストラクターが安全運転のポイントをアドバイスし、運転技術とともに安全意識を高めることができます。

親子でバイクを楽しむ会

バイクに乗る体験を親子で共有することで、親子の絆を深めていただくためのスクールです。お父さん、お母さんが先生になって、バイクの操作方法や楽しさ、交通ルールやマナーの大切さをお子様に伝えます。ご家族のコミュニケーションづくりにも最適です。

HDS (Hondaドライビング・スクール)

HDSは、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけていただく参加体験型のスクールです。運転に自信がない方には基本から丁寧にアドバイス。もっと運転を楽しみたい方も、Hondaの先進設備で危険を安全に体験する運転トレーニングが行えます。

企業向け安全運転研修

各企業の実情に合わせた交通安全教育を提供しています。これまでに1,500社を超える企業様の交通安全対策をサポートしています。安全運転研修に参加された企業様は、その後の実績や調査から、事故の減少効果が確かめられています。

